

有明工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	文学 I
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	創造工学科		対象学年		1	
開設期	通年		週時間数		前期:1 後期:1	
教科書/教材	『精選 国語総合』；岩崎昇一他著/三省堂『セレクト漢字検定 5級～2級』；桐原書店編集部編／桐原書店『古典（古文・漢文）基礎ノート』；数研出版編集部編／数研出版『新訂 総合国語便覧』；稲賀敬二他著／第一学習社副読本：読んでおきたい日本の名作『羅生門・鼻・芋粥ほか』/新潮文庫『日本語文章表現法演習レポート集（新聞コラム編）2019』焼山廣志・藤崎祐二共著					
担当教員	焼山 廣志,藤崎 祐二,廣瀬 裕美子					
到達目標						
1．近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、新聞のコラムの一文を書写し、不明語句を辞書やサイトを使って調査整理することにより、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を身に付ける事ができる。 2．古典としての古文と漢文を読解し鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身に付けることができる。 3．日本語の表現能力を向上させる基礎である漢字の習熟をはかる手立てとして漢字試験を年間を通して実施される事により漢字力を身につけることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文章や作品を読解し、文脈と要点を適切に把握することができる。		文章や作品を読解し、文脈と要点を把握することができる。		文章や作品を読解し、文脈と要点を把握することができない。	
評価項目2	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることが適切にできる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。	
評価項目3	新聞コラム等の社会で使用される言葉を始め常用漢字の習得を含む幅広い日本語の習得をし、その意味や用法を適切に理解できる。		新聞コラム等の社会で使用される言葉を始め常用漢字の習得を含む幅広い日本語の習得をし、その意味や用法を理解できる。		新聞コラム等の社会で使用される言葉を始め常用漢字の習得を含む幅広い日本語の習得をし、その意味や用法を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 A-3						
教育方法等						
概要	現代文・古文の作品読解を行い、鑑賞力を高めるとともに新聞コラム等を使った表現力の向上を図る。					
授業の進め方・方法	授業は現代文と古典を2対1の割合で進めていく。しかもある特定の分野だけに偏ることのないように幅広く作品を取り上げていく。また常用漢字の習得の徹底を図るために副教材の漢字演習問題集を活用した授業を展開する。一方、文語文法や漢文の訓読法など言語事項の基礎力の定着を配慮しながら、現代文のみならず古典の基礎的な文章を的確にとらえ、その内容に対して自分の感じたこと、考えた事を筋道を立てて説明出来る力を身に付ける事					
注意点	漢字検定試験3級程度の語彙力					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文学作品鑑賞ガイダンス・学習方法の例示・演習		学習目標と授業の進め方を理解できる。 授業内容の予習復習のやり方、授業中のノートの取り方、コラム副教材の学習法が理解できる	
		2週	コラム演習ガイダンス・学習方法の例示・演習		学習目標と授業の進め方を理解できる。 授業内容の予習復習のやり方、授業中のノートの取り方、コラム副教材の学習法が理解できる	
		3週	コラム演習 古典の基礎知識		登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。	
		4週	漢字月例試験 古典作品鑑賞・暗唱		登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。	
		5週	コラム演習 古典作品鑑賞・暗唱		登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。	
		6週	漢字月例試験 古典作品鑑賞・暗唱		登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。	
		7週	漢字月例テスト		漢字検定試験 4 級の語彙力を身につける	
		8週	コラム演習 作品鑑賞①		登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		これまでの授業内容を理解できる	
		10週	テスト返却と解説		解説を聞き、理解不足の知識を補う事ができる	
		11週	コラム演習 作品鑑賞②		古典鑑賞における基礎知識が理解できる。 古典仮名遣い・古語の発音法・基礎古語の理解ができる。	
		12週	コラム演習 作品鑑賞③		漢字検定試験 4 級の語彙力を身につける 著名な古典作品を朗読し、内容を理解できる。 あわせて冒頭の一文を暗唱できる。	
		13週	コラム演習 作品鑑賞④		著名な古典作品を朗読し、内容を理解できる。 あわせて冒頭の一文を暗唱できる。	

後期		14週	コラム演習 作品鑑賞⑤【完】	漢字検定試験4級の語彙力を身につける。 著名な古典作品を朗読し、内容を理解できる。 あわせて冒頭の一文を暗唱できる。
		15週	前期末試験	
		16週	テスト返却と解説	解説を聞き、理解不足の知識を補う事ができる
	3rdQ	1週	コラム演習 作品鑑賞①	登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。
		2週	コラム演習 作品鑑賞②	登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。
		3週	コラム演習 作品鑑賞③	登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。
		4週	コラム演習 作品鑑賞④	登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。
		5週	漢字月例試験	漢字検定試験3級の語彙力を身につける
		6週	コラム演習 作品鑑賞⑤【完】	登場人物の心理と行動を深く知り、更にその作品を鑑賞することで多岐にわたる日本語の表現技法を理解できる。
		7週	コラム＆古典 漢文の基礎①	漢文の基本的な文の理解ができる。
		8週	漢字月例テスト	漢字検定試験3級の語彙力を身につける
	4thQ	9週	後期中間試験	これまでの授業内容を理解できる
		10週	テスト返却と解説	解説を聞き、理解不足の知識を補う事ができる
		11週	コラム＆古典 漢文の基礎②	漢文の基本的な文の理解ができる。
		12週	漢字月例試験 古典 漢文の基礎③	漢字検定試験3級の語彙力を身につける 漢文の基本的な文の理解ができる。
		13週	コラム＆古典 漢文の基礎④	漢文の基本的な文の理解ができる。
		14週	漢字月例試験 古典 漢文の基礎⑤	漢字検定試験3級・準2級の語彙力を身につける 漢文の基本的な文の理解ができる。
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却と解説	解説を聞き、理解不足の知識を補う事ができる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0